

分類	主なご意見
<p>検討の進め方について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本検討会で想定される検討課題に対し、一度に全てに対応するのは難しいだろう。今後のMaaSに関わる取組みを通じて、課題解決の方向性が見えてくる事項も想定されうるほか、別の問題に直面する可能性もある。そのため、<u>現在把握されている課題に対し、少しずつ対応していくという方針が重要</u>である。</li> <li>○ 車椅子利用者や聴覚障害者、視覚障害者からの要望の中には、例えば、すぐに全国展開が難しいといった事業者側の課題も想定される。課題解決に関わる実現の難易度について、事業者側の意見も踏まえつつ、継続して議論を行ったほうが良い。</li> </ul>
<p>調査のスコープについて</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 事業者間の連携の中で<u>情報の統一化が早期に進めば、MaaSの利用に係るハードルもより容易になる</u>と考えられる。バリアフリー化は、公共の福祉に資するものであり、地域間・事業者間で協調しながら進めていくもので、いわゆる一般的な「企業間の競争」にはそぐわない。そのため、MaaSに関わるサービスやアプリケーション等においては、国などの公共主体が率先して「<u>事業者間で連携し情報の統一化を図る</u>」ことが重要ではないか。</li> <li>○ MaaSにおける機能・サービスは、予約・決済・検索だけでなく、利用者に合わせてパーソナライズも重要な機能である。また、地域にどのような交通サービスが提供されているかを知らせる機能も重要である。特に、MaaSのバリアフリー化を検討する上では、<u>利用者の特性に応じて必要な情報やサービスの提供等</u>の検討が重要になることから、検討事項に追加したほうが良い。</li> </ul>

分類	主なご意見
<p>将来的な議論の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ MaaSは、様々な情報提供・サービス提供の対価として、様々な情報と連携した<u>質の高い利用者の利用・行動履歴が取得できる可能性</u>を秘めている。特に本事業に関連するデータとしては、事業者毎の対応の違いや、好事例等も収集可能と考えられる。将来的な視点として、MaaSによって得られるデータの活用や共有といった視点も重要である。</li> <li>○ MaaSを通じた取組みは、「<u>心のバリアフリー</u>」にも通じる<u>非常に重要な施策</u>と考える。中長期的な視野も含めて、継続的に検討を続けていくことが重要である。</li> <li>○ MaaSは、移動手段の連携や移動に関わる多様な選択肢の提供が重要な要素であるが、このような<u>新しいサービスが新たな障壁を生まないか</u>についても注視したほうが良い。例えば、各地で実証実験等が行われている自動運転バス、グリーンスローモビリティのような新たなモビリティの導入によって生まれる課題についても議論しても良いと考える。</li> </ul>